

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 2科目150分

## 解答形式

記述, 論述, 選択

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

大問数は例年通り3題で問題文の分量も昨年並みであったが、論述問題の指定行数が昨年の21~23行程度から34行程度と増加したことから、全体としての分量は昨年よりやや増加した。一方、昨年よりも難度の高い考察問題が減少したことから、難易度は昨年よりやや易化したと考えられる。

## 出題の特徴

出題の多くは考察問題であるが、生物学用語の穴埋めや文章選択型の知識問題も出題される。例年、指定行数が1~3行程度の論述問題が多い。

## その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

昨年までは論理的思考力を問う難度の高い考察問題が多かったが、今年は知識問題の割合が増加した。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	記述 論述 選択	遺伝子 タンパク質	生物	E 終止コドンを覚えていないと、解答することができない。 K $500 \div 2^7$ で計算できる。	やや易
第2問	論述 選択	植物の反応 光合成 生態と環境	生物	A リン酸を与える前は相利共生、与えた後は寄生と考える。	標準
第3問	記述 論述 選択	系統 進化 発生	生物	E 設問文中の「仮説を適切に説明した」という内容の解釈によっては、(ア)は異なる解答も考えられる。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

- ・教科書レベルの基本的な知識を身につけ、これを正確に論述できるように練習を重ねよう。
- ・普段の学習から、丸暗記ではなく論理的に考える癖をつけよう。
- ・過去問などの演習を通して、東大型の問題に慣れておこう。
- ・試験時間に対して問題量が膨大なので、問題演習を重ねて問題文の読解や解答作成の速度を上げるとともに、自分が解ける問題から解き始める習慣を身につけよう。
- ・生物学の最新のトピックスに関心を持ち、生物学的な内容を扱ったニュースなどにも目を通しておこう。